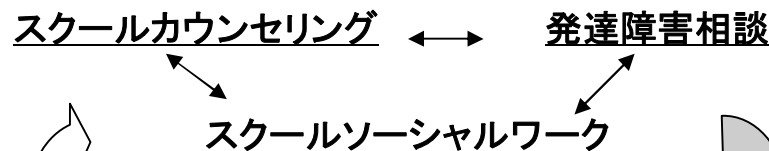


1: スクールソーシャルワークを活用した ＜子どもの問題＞支援システムの構築

本学の総合的な＜子ども応援力＞のUp!

東京学芸大学・教育実践研究支援センター

①＜子どもの問題＞総合相談窓口の開設



②スクールソーシャルワークのフィールド研究



③教員養成カリキュラムへの還元

＜子どもの問題＞の構造的解明

教員への過重な負荷の軽減

実践力ある教員養成への貢献

スクールソーシャルワーカー養成への貢献

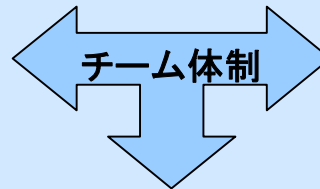
2: <子どもの問題> 総合相談の特徴



<子どもの問題> 総合相談窓口

スクールカウンセリング部門

学校配置のスクールカウンセラーからの相談や研修を支援



発達障害相談部門

発達障害等、子ども・保護者・教員等の困り感に即応

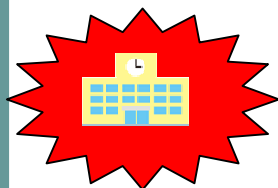
スクールソーシャルワーク部門

社会福祉的援助に関する専門的助言とネットワークづくりへの協力

- 三つの専門的視点からの総合的な問題把握と支援
- 学校・家庭・地域へ出向いて行う支援
- 本人だけではなく、家族や学校に対する支援

3: フィールド研究の目的と方法

大学が中心となった新たなスクールソーシャルワーク支援モデルの開発



貧困・家庭崩壊など社会福祉的援助が必要な児童への対応が急務

大学からスクールソーシャルワーカー(特任教員)を派遣

連携拠点校と協働した事例研究



対象事例の特定



個別支援会議による支援の推進



支援事例の記述と蓄積



支援事例の分析とモデル化



相互環流

フィールド研究のサポート体制

○国内外の先進地実地調査

スクールソーシャルワークを活用した子どもの問題に対する総合的な支援事例・支援体制を訪問調査により把握。

○合同研究会議の開催

学内外の研究者・実践家等を交えたスクールソーシャルワーク支援モデルに関する協議会を開催。

○公開フォーラムの開催

研究成果や課題、最新情報を広報し共有する公開フォーラムを開催。

4: 本取組の実施体制

東京学芸大学<子どもの問題>支援システム・プロジェクト

東京学芸大学・教育実践研究支援センター

スクールカウンセリング部門

- ・専任教員2名(既配置)
- ・兼任教員7名(既配置)

発達障害相談部門

- ・専任教員6名(既配置)
- ・兼任教員7名(既配置)
- ・専門研究員1名(新規配置)
＜非常勤、臨床心理士等の資格を有するもの＞

スクールソーシャルワーク部門

- ・特任教員2名(新規配置)
- ・兼任教員5名(新規配置)



- 社会科学講座
- 特別支援科学講座
- 養護教育講座
- 生活科学講座
- 教育心理学講座

特任教員はスクールソーシャルワーカーとして活動



- #### 連携拠点校
- 特別支援教育コーディネーター
 - スクールカウンセラー
 - 支援員
 - 校内委員会、等

5: 事業達成による波及効果

①<子どもの問題>の構造的解明

子ども本人の要因に加え、家庭・学校・地域の因子がどのように<子どもの問題>を生み出しているのかを構造的に解明する。

②教員への過重な負荷の軽減

教員の守備範囲を超えた社会福祉的援助を必要とする児童生徒の問題に対し総合的な支援を行うことで、教員への過重な負荷を軽減し、本来の教育活動により多くの力を注げる体制を整備することができる。

③実践力ある教員養成への貢献

教員養成カリキュラムに本研究成果を盛り込むことによって、<子どもの問題>に対する的確な判断と対応ができる教員を養成することができる。

④スクールソーシャルワーカー養成への貢献

「スクールソーシャルワーク実習」等の授業と連動して、平成21年度開始の本学スクールソーシャルワーカー養成の質を向上させる。

6: 本取り組みの年次計画

